
煙突、唐辛子、男

抹茶小豆

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

煙突、唐辛子、男

【Nコード】

N1370M

【作者名】

抹茶小豆

【あらすじ】

今日の三題噺です。

苦肉の末、ぐでんぐでん。

厳しい

スピーカーからは、砂嵐のようなノイズに混じって、微かな通信が聞こえてきた。

「太陽系 二 知的生物 ガ 生存スル 地球 ト イウ 惑星
ヲ 発見シマシタ」

グレーの肌に、ぎょろりと光る不気味な瞳。

身体は我々地球人よりも遥かに小さいくせに、腹だけが異様に大きい。

そう、ジョーンズの正体は宇宙人なのである。

世界征服の名のもとにその情報収集には余念がない。

ジョーンズは自らの姿を外国人観光客に変えて、わが国日本に潜入捜査を試みているのである。

都市計画なんだか、なんなんだかよくは知らないのだけれど、この街の風景も随分変わったなと思う。通りに面してハイセンスなマンションや高層ビルが立ち並び、洒落たカフェなどが軒を連ねる。そんな風景が嫌いということはないのだけれど、よそいきのおすまし顔は、なんだか肩がこると少年は思った。

路地を一本入るとよきつと見える一本の煙突。煤けて随分くたびれて、一の木温泉と書かれている。今ではもうあまり見かけなくなつた銭湯なのだけれど、ハイセンスなマンションよりも、高層ビルよりも、少年はそんな下町の風情が好きだったりする。

純和風の蛙股の瓦が、それこそ時代劇の世界にタイムスリップした

かのような気分になんてさせてくれるこの一の木温泉が少年は特にお気に入りだった。

天然記念物みたいな高齢のおばあちゃんが座る番台を通り抜けると石罅の匂いとキン冷えたクーラーの冷気の心地よさにしばし息をつく。

「玄さん今日も来てるかな」

少年はやる期待に胸を弾ませる。

玄さんは80歳を過ぎた高齢のおじいちゃんなのだが、僕が行くとよく昔話を面白おかしく話して聞かせてくれるのだ。少年は半分それが楽しみでこの銭湯に通っている。

「都会はきらめく passion fruit ウィンクして
every night」

グラスの中の passion beat 一口だけで fa
ll in love」

玄さんはご機嫌に湯船に浸かり、杏里のキャッツアイを熱唱している。

「なに？ 昔の泥棒だった？ そりゃなんといってもお前さん、鼠小僧を忘れちゃいけませんよ。私腹を肥やした大名屋敷の奥向きにひょいと身軽に忍び込んで、頂戴した千両箱の中身を貧しい民に分けてやる、鼠小僧っていうのはさあ、義賊。いわば庶民のヒーロってわけさ」

（か……カッコいい）

そう思ったのは玄さんと話していた少年ではなく、その横で聞き耳を立てていたジョーンズだった。気のせいか握りしめた拳が感動にプルプルと震えている。

「そっかあ、あと泥棒っていうとちょっと古典的だけどオーソドックス

クスなところで言うなら、サザエさんに出てくる唐草模様の風呂敷を背負ったアレね」

「おお、そうじゃ。泥棒といえば唐草模様じゃのう」

玄さんが陽気に笑って相槌を打つ。

「あとねえ、この前従兄のお兄ちゃん家で読んだ昔の漫画なんだけどさあ。美人三姉妹がレオタード着て活躍するアレ、僕大好きなんだよねえ」

少年が薄らと頬を染めた。

「うおお、わしは何と言つてもルイ姉さんが好きじゃあゝ！ おっぱいボインで熟女系。うっひゃあ、モロわしの好みじゃあ」

何食わぬ顔をして隣で二人の話を聞いていたジョーンズの鼻から、静かに緑色の液体が流れ落ちた。（おっぱいボインで熟女系……、美人三姉妹がレオタードを着て活躍する話）

さてそれから数日後、街に変な噂が流れた。

「ああ、でるらしいぜ。レオタードを着たアレが」

（おっぱいボインで熟女系……、美人三姉妹・レオタード）

何気に少年とじいさんの期待値が膨らむ。

いや、街の男子全員の期待値がMAXに膨らんだ。

そしてあの曲が流れる。

「都会はきらめく passion fruit ウィンクして
every night」

グラスの中の passion beat 一口だけで fa
ll in love」

月影に浮かぶ美しき盗賊にサーチライトが重なる。

「ねえ、玄さん。レオタードの模様がなんだか唐辛子のように」

「はは……そうだね」

少年とじいさんの頬を涙が伝う。

「私は盗賊うゝ、あなたのハートを奪った」
ジョーンズが、観衆に投げキッスを送る。
どうやら、何かに目覚めたようだ

だれか突っ込めよ。唐草と唐辛子「唐」しかあってねーのに、あの
外国人わけわかんねえ勘違いしてやがるよ。っていうか、日本文化
そのものを愚弄してねえか？

つうか、それよりなにより、
てめー男じゃねーか！！！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1370m/>

煙突、唐辛子、男

2010年10月10日14時34分発行